

米国 IDC 社の「MarketScape: Worldwide Sustainability Programs and Services Hardcopy」評価でキヤノンが 2 度目の「リーダー」を獲得

キヤノンは、米国の IT 専門調査会社である IDC 社がサステナビリティ観点で企業評価を行った最新の報告書「IDC MarketScape: Worldwide Sustainability Programs and Services Hardcopy 2026 Vendor Assessment[※]」において、初調査の前回（2023 年）に続き、2 度目の「リーダー」評価を獲得しました。

本調査は、世界の主要なハードコピーベンダー11 社を対象とし、サステナビリティの観点から企業戦略、事業運営などを評価するものです。本報告書では、「キヤノンは、高度なリサイクル、リマニュファクチャリング、デジタルの最適利用を含む、技術主導かつ包括的なサステナビリティアプローチを求める組織にとって適したベンダーである。革新的なソリューションを通じてサステナビリティ目標の推進を目指す大企業および中堅・中小企業も、キヤノンを検討すべきである。」と評されています。

キヤノンは、原材料の調達から生産、流通、使用・維持、廃棄・リサイクルに至るまで、製品ライフサイクル全体を通じて、資源循環と脱炭素に寄与する技術開発や仕組みづくりを進めています。新規資源の使用量削減や再生材の活用、廃棄物の削減に加え、生産・使用時の CO₂ 排出量削減にもグローバルで取り組み、環境負荷の低減を図っています。

資源循環の取り組みとしては、回収した使用済み複合機を新品同様に再生・商品化する、複合機再生（リマニュファクチャリング）事業を展開しています。日本やドイツの再生拠点で確立した独自の生産工程・再生技術を活用し、生産された再生複合機は、製品1台あたりの重量において90%以上の高い部品リユース率を実現するとともに、新品同様の高品質・高性能を維持しながら低価格での提供が可能です。2026年4月には米国でも複合機再生事業を開始し、さらなるグローバル展開を進めています。また、1990年より、業界に先駆けて開始した「トナーカートリッジリサイクルプログラム」にも継続的に取り組んでいます。世界24カ国で使用済みのトナーカートリッジを回収し、日本・フランス・米国・中国の拠点でリサイクルを行っています。回収したトナーカートリッジに使用されているプラスチックを新しいプラスチック材料と同等の品質に再生し、新品トナーカートリッジに再利用しています。

また、脱炭素に向けて、2008 年に製品 1 台あたりのライフサイクル CO₂ 改善指数を年平均で 3%改善することを目標に定め、2025 年までに年平均約 3.59%、累計で約 45.5%の改善を達成しました。今後もさまざまな製品・技術・事業活動を通じて環境負荷低減に取り組むとともに、2050 年までに製品ライフサイクル全体を通じた CO₂ 排出量をネットゼロにすることを目指しています。

〈IDC MarketScape について〉

IDC MarketScape ベンダー評価モデルは、特定の市場における IT サプライヤー、サービスプロバイダーの競争力の概要を提供するように設計されています。この調査では、定性的および定量的な基準に基づく厳密な採点方法を用いて、特定の市場内における各企業のポジションを単一のグラフィカルな図で表現します。IDC MarketScape は、IT ベンダーの製品・サービス、能力、戦略、現在および将来における市場での成功要因を有意義に比較できる明確なフレームワークを提供します。また、このフレームワークを利用することで、IT バイヤーは、対象ベンダーの現在および将来に渡る強みと弱みを 360 度で評価できるようになります。

※ IDC MarketScape: Worldwide Sustainability Programs and Services Hardcopy 2026 Vendor Assessment（doc #US54139426, June 2026）